

会議録【全文筆記】

会議名称	令和6年度 第5回米沢市総合計画審議会	
開催日時	令和7年2月19日（水） 午後3時30分～午後5時00分	
開催場所	置賜総合文化センター 2階 203 研修室	
出席者	(委員等氏名)	(所属団体等)
	会長 野々村美宗	山形大学工学部 副学部長
	会長代理 田中明子	米沢商工会議所 事務局長兼総務企画部長
	委員 伊藤広幸	米沢市内高等学校校長会 会長
	委員 伊藤優子	株式会社ニューメディア 取締役米沢センター長
	委員 岩崎令子	米沢観光コンベンション協会 副会長
	委員 大和田浩子	山形県立米沢栄養大学健康栄養学部 学部長
	委員 川野敬太郎	米沢青年会議所 特別常任理事
	委員 川村麻耶	団体職員
	委員 小関洋子	米沢市青少年育成市民会議 副会長
	委員 小山克成	米沢市小中学校校長会
	委員 斎藤美綺	株式会社 nitorito 取締役 デザイナー
	委員 島倉邦広	米沢市電子機器機械工業振興協議会 会長
	委員 須貝容子	米沢市保育会 副会長
	委員 清野雅好	米沢市社会福祉協議会 地域支援課長
	委員 平山博志	山形県自主防災アドバイザー
	委員 松田智博	米沢市商店街連盟 理事長
	委員 我妻康次	米沢市コミュニティセンター館長会 会長
欠席者	委員 加藤公一	米沢市芸術文化協会 副会長
	委員 佐々木隆行	JA 山形おきたま米沢地区青年部 委員長
	委員 土田良雄	米沢市スポーツ協会 会長
事務局	市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、会計管理者、上下水道部長、市立病院事務局長、教育管理部長、教育指導部長、議会事務局長、政策企画課長、政策企画課長補佐兼未来都市推進室長兼総合計画策定室長、政策企画課企画調整主査、政策企画課主任、政策企画課主事	
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議事 (1) 基本構想（案）等について (2) 今後の進め方等について 5 閉会	
会議資料	(1) 次第 (2) (仮称)米沢市総合計画（案） 資料1 (3) 総合計画審議会及び議会等における意見等について 資料2 (4) 今後の進め方等について 資料3	
会議内容		
【1 開会】		
省略		

【2 会長あいさつ】

皆さん、こんにちは。総合計画審議会も5回目でございます。委員の皆様にたくさんのお意見をいただき総合計画も少しずつ具体的なものになってきていると感じております。前回事務局から原案が出され、いろいろな御意見をいただきました。今回は委員の皆様からいただいた御意見を参考に取り入れたものが事務局から出てきております。本日も活発な御意見をいただき良い総合計画にしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【3 市長あいさつ】

皆様、こんにちは。本日は野々村会長をはじめ、委員の皆様にはお忙しいところ御参集いただきありがとうございます。市役所から文化センターまで歩いてくると、大変な雪の壁がございまして、市内あちこちに雪の壁がございますが、改めて今シーズンは例年ない大雪でございます。建設事業者の方々も懸命の除雪・排雪作業をしていただいているわけですが、災害級の大雪でありますので、手が回らない路線も一部にはあって、市民の皆様に御不便をお掛けしているかと思いますので、この場をお借りしてお詫びをしたいと思っております。大雪があった令和3年と比べますと、市に寄せられる苦情件数は半分以下となっております。新しい除雪システムを導入させていただき、また、排雪作業についても今シーズン1回目から補助を出させていただき展開していることがある程度は機能しているかと思っております。そのように申しましても、今年度の除排雪費用が見込みを大きく上回りまして、米沢市では20億円を超える見通しであります。過去最高であった令和3年度の16億5,000万円だったのが大きく上回るという結果になる見通しであります。除排雪で経済が回る部分もあり、また、お米の水の確保という意味ではプラスの面もあるわけありますが、現実で見ますと、これだけ雪が多いと米沢市から離れようかと言った声がないわけではございません。なぜ雪の話をこのようにしたかと申しますと、だからこそ、新しい総合計画において、希望が持てると申しますか、私の言葉で言うとワクワクするといいましょうか、「好循環の米沢」を実現して、その道しるべを示さなければいけないと強く感じているところでございます。本日は基本構想ということでお示しをさせていただき、皆様の御意見をお聴きしたいと思います。構想の後は具体的に何をするかという基本計画になります。今日で作業が終わるのではなく、新年度また具体的な作業に入るということであります。委員の皆様には、引き続き新年度もお力添えをいただくことになるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

【4 議事】

(1) 基本構想（案）等について

（資料1、2に基づき説明）

委員 13ページに年齢別のグラフがありますが、重要目標達成指標としての目標が7万人程度になっております。「結婚・妊娠・出産・子育てに対する切れ目のない支援」ということで、人口は大事だと思うのですが、どちらかというと65歳以下の人口をどれくらいにしたいか、目的にあった目標にしたほうが良いのではないかと思います。7万人というと全年齢の人口になりますが、出生率を上げていこう、転入者を増やしていくこうということを目指していると思います。パーセンテージが出ておりまして、0～64歳が67.8%で目標が64.5%となっていますので、60%程度という目標を入れてはどうかと思いました。目標と合致すると思ったのですがどうでしょうか。

事務局 目標としまして、若者にできる限り残ってもらうとともに、入ってきてても

	らうようなことを掲げております。それに対して、下のグラフの中でどれぐらいのパーセンテージになるかを出させていただいております。ただ、若者だけの目標にしてしまいますと、高齢者はどうなるかという意見なども出てきたところもございましたので、それも含めた上で7万人程度という全体の目標の数値を出していきたいと考えているところでございます。
事務局	折れ線グラフの赤と緑の関係でいうと、緑のグラフが下がっているわけですが、それを上げていくことになると、出生数を増やす方法しかないと思います。実際は0～14歳の人口を増やしていく、転入・転出は、転出を抑制し転入を増やすという意味では全年齢が対象となりますが、大きいところは0～14歳になると思います。
委員	目的に合致した数値にするならば、総人口ではないのではないかというのが私の考えです。補足でも構いませんが、パーセンテージは0～65歳以下が良いか、0～14歳以下が良いか分かりませんが、数値を入れたほうが整合性をとれ、目的と合致した目標値になるのではないかと思います。
事務局	赤と緑のグラフの内訳が見えない部分がありますので、比較が分かる資料を追加しながら、若者がどれぐらい増えると良いか見せることができるように工夫したいと考えております。
委員	12ページに「『しあわせ』を実感できるまち」とありますが、「若者が集まり、若者が集まることで産業や経済が活性化して市民や企業の所得が増え、所得が増えすることで税収も増えていく」という内容だとすれば、お金の話ということでおろしいですか。「人を育み、人を活かす『学園都市・よねざわ』」は、産学官の話だと分かるのですが、具体的なことを入れてほしいということではないのですが、上はお金の循環があるという話で、下は書き方として弱いかと感じました。初めて出てきている資料なので、文章としても少し見ていただきたいと思いました。
事務局	上の部分はお金もそうですが、ひと・モノ・お金が集まつてくるまちというところで掲げているところもありますので、そういった中でひとが集まり、それによってお金も集まり、新たなまちとして環境も整備されていくという好循環をイメージして考えていただければと思います。下の部分は産学官の連携になりますが、今まで学園都市ということで掲げてきたわけですが、新たな学園都市として一歩進める形で、産学官やそれ以外にも様々な連携があると思いますが、そういったものをうまく繋げながら新しい米沢を作っていくイメージで書かせていただきました。文章は改めて検討させていただきたいと思います。
事務局	上の部分は言葉足らずなところがありますが、「税収が増えることで誰もが安心して住み続けられる環境が整う」ということは、その税金を使っていろいろな公共交通や雪対策など、米沢を住みやすくしていくところにつなげていきたいという部分が足りないと思いました。産学官の連携については、新たな連携や人脈を活かしながら、国の中央省庁や外郭団体などとの連携もいろいろと模索しているところですので、そういったところを使いながら、今までとは違う産学官の連携をやっていきたいところであります。
委員	幸せというのは抽象的というか感じ方で変わってくるかと思うので、内容について配慮が必要かと読んでいて思ったところです。
会長	文章はこれからブラッシュアップいただくかと思いますが、どうやって幸せを実感できるまちに育てていくか、イラストなども含めて入れていただくと分かりやすいのではないかと思いました。幸せという定義は難しく、気持

	<p>ちとしての幸せもありますが、ウェルビーイングですので、生きていくための良い状態という定義でお使いになられているかと思いました。</p>
事務局	<p>15 ページを補足させていただきますと、デジタル庁で全国の市町村のカテゴリー別のチャートグラフを作っています。幸せは人によって違いますので、それぞれの分野毎にどういった状況にあるかということを、主観データと客観データということで、主観はアンケート調査で調査し、それぞれの分野毎にどう思っているかということを表しているのがオレンジのほうになります。また、青のほうは客観データということで、まちづくりに関する指標がたくさんありますので、そういったところを分析しながらそれぞれの分野毎にどのぐらいのレベルにあるかということを示しているものになります。ウェルビーイングの考え方として、人の幸せは様々ですので、いろいろな幸せがあるところを一つの判断指標ではなく、カテゴリーに分けて細かく分析していくことで、幸せの度合いを全体的に高めていくことを考えておりまして、このチャートを少しでも外に広がるような形で、今後のまちづくりを行っていきたいと思っております。</p>
委員	<p>ウェルビーイングに関連して、デジタル庁のデータを載せていただいて非常に良かったと思っているところです。14 ページに赤字で補足していただいているとおり、国の指標を活用していることを追加いただいていますが、現状、米沢で主観と客観で開きがあるところはここである、具体的にこのように改善していくというような説明があるだけでも違うのではないかと思います。例えば、自己効力感が客観データのほうが高いということは、米沢の方は控えめで幸福度を低めに回答しているのではないかと感じます。全国的な指標と比べて、米沢の幸福度がどのぐらいのレベルにあるか、目標としている6点以上というところも、全国で行っているアンケートと内容が違うので一概に比べられないかと思いますが、いろいろなところで行っているアンケート調査の中で、米沢市が全国の中でどれぐらいの位置にあるか、全国の平均値も分かると米沢市が高いか低いかということも分かると思います。現状分析が少しあれば分かりやすいのではないかと思います。複雑になるのであえてカットされたのかもしれないですが、そのあたりをお聞きしたいです。もう1点は、交通施設は国や県によるところが多いと思いますが、土地利用も国や県の公共施設や森林なども含めて、米沢市以外の所有のものも多くあるかと思います。土地利用で国や県の部分について、言及されていないと感じたので、そのあたりの理由をお聞かせいただければと思います。</p>
事務局	<p>ウェルビーイング指標について、カテゴリー別のデータで主観データと客観データを載せていますが、偏差値で掲載しています。国のダッシュボードに掲載されていますが、それを見ても他の市町と比べるために使うものではないということが書かれております。他市町と比べて米沢市がどういった位置にいるのかを見るというより、米沢市の中で、例えば、自己効力感が客観データと比べて主観データが伴っていないといった部分のギャップを無くしていくように使っていくものであると捉えております。主観データと客観データで差があるものについて、改善ていきたいという文言を追加することは可能かと思いますが、他市町と比べることは難しいと考えております。土地利用については、市の計画になりますので、市で所有しているような施設の今後の方向性について書いております。国や県については、県立中高一貫教育校であれば県のものになりますので、どういったところに誘致したいということはいえるかと思いますが、市の計画ということで具体的なことは書</p>

	いていない状況でございます。
事務局	ダッシュボードについては、委員から審議会で御意見いただき、新たに載せさせていただきました。市長の人脈を使いましてデジタル庁の職員にも来ていただき、ダッシュボードの研修会も役所内部では行っているところです。今後、深掘りしながら、主観データと客観データ全体を上げていくことやギャップを埋めることができるかという研究に取り組んでいきたいと思っておりますので、そういったところを今後見ていただければと思います。
委員	16 ページに「駅及び駅周辺の活性化とにぎわいの創出」とありますが、どういった活性化やにぎわいの創出となるのでしょうか。例えば、駅周辺が米沢で一番歩行者が多いエリアになっています。歩行者の増加なのか、宿泊客の増加なのか、公共交通を利用する人の増加なのか、それによっても政策が大きく変わるとと思うので、活性化やにぎわいの創出は何を目指すものなのかを明確にしていただきたいと思います。同じく、「拠点づくりと景観形成に努め」とありますが、努力目標のように感じてしまうので、例えば、保全のための投資を増やすとか、ひと・モノ・お金をどうやって使っていくかというところで、具体化いただければと思いました。
事務局	駅周辺については、漠然とした形で書かせていただいております。具体的な施策はこれから様々検討していく部分もありますので、抽象的な表現をとらせていただいたというところはあります。どこまで明確にできるかは、引き続き検討させていただきたいと思います。後段についても、どこまでできるかもございますので、引き続き検討させていただきたいと思います。
会長	計画に盛り込むことは別にしても、市で検討していることなどがあれば説明いただくとイメージが持ちやすいかと思いましたがいかがでしょうか。
事務局	例えば、駅舎も 30 年経過していますので、駅の中のリニューアルなども課題にはなっているかと思います。また、駅前の広場も雪の問題などもありますので、いずれかの段階でハード的な整備も検討していかなければならぬと思っております。長期的にハード的な整備も含めて考えていく必要があるかと思っております。
委員	16 ページに「人口減少社会にあっても持続可能なコンパクト・プラス・ネットワークのまち」とありますが、何となくイメージは湧きますが、もっとはつきりとしたイメージを描かれるような説明文や図を入れてくれると良いのではないかと思います。この言葉だけだとそれぞれみんなイメージが違う可能性があると思います。
事務局	最終的には図を入れたいと考えております。ただ、どういった図を描けるのかといったところは検討させていただきたいと思います。また、コンパクト・プラス・ネットワークについて、図だけでは説明できない場合もありますので、説明文なども分かりやすくなるように追加したいと思います。
委員	19 ページに「コンパクトで災害に強い都市基盤を整備するとともに、ともに助け合う雪・防災対策を推進する」とありますが、命に関わる防災対策・防災活動は、町内会活動の中においても優先しなくてはならない大切な活動でございます。この文章の表現では弱いのではないかと思いますので、もう少し強く表現できないかと思いました。「雪・防災対策を推進する」のところを「大雪・大雨・大地震等への防災対策を推進する」というような文章に変えたほうがみんなの気持ちに響くのではないかと考えているのですが、検討をお願いしたいと思います。
事務局	具体的な表現にできないか検討させていただきたいと思います。ここに書

	けなかったとしても、基本計画の具体的な取組の中には、そういった文言も入れられると思いますので、検討させていただきたいと思います。
会長	基本目標は文字数にも限りがある中で、どれだけの情報を入れられるかは難しいかと思います。将来像で学園都市という言葉を入れるということですので、それが産業・経済の部分であるとか、健康・医療・福祉のところで役割を果たしていくのだというところが入っていると、学園都市という言葉が将来像のキャッチフレーズの中に入ることに意味が持たれるのかと思います。それがさらに具体的な計画に入っていくという流れにすると良いと思いました。
事務局	学園都市は将来像に掲げておりますので、それが基本目標にも反映できるように文言の追加や修正をしたいと思います。
委員	17 ページに「市街地内及び市街地と周辺地域を結ぶ環状道路や幹線道路の整備」とありますが、既存の道路のことをいっているかはっきりしませんが、都市計画道路の推進についても入れるのはいかがでしょうか。「バス、乗合タクシー等の充実を図り、市街地内及び市街地と周辺地域を結ぶ」とありますが、周辺地域間の交通も必要だと思っています。その文言が抜けていてるので、そのあたりはどう考えているか質問させていただきました。
事務局	道路について、環状道路には都市計画道路石垣町塩井線などを含んだイメージで書かせていただいておりますので、御承知いただければと思います。市内公共交通について、乗合タクシーは周辺地域間がないですが、今後はそういうものも活用しながら検討していきたいと考えておりますので、周辺地域間についても文言として盛り込めれば盛り込んでいきたいと思います。
委員	6 ページの人口減少のグラフに年齢別の項目がありますが、65 歳以上、65 ~74 歳、75 歳以上と細かく分かれているのは、そういったデータがあるからでしょうか。社会の中心といいますか、実際に働き、子育てをしている 30 歳代~64 歳までの図があると、支えている人口が減っていることが具体的に見えてくるかと思います。65 歳、75 歳で細かく区切っている理由と、もし追加できるならば 30 歳からの項目があると見やすいと思いました。
事務局	0~14 歳、15~64 歳、65 歳以上は、国でも 3 区分別で分けているものです。0~14 歳の年少人口、15~64 歳の生産年齢人口、65 歳以上の老人人口に分かれていますので、3 つに分けている状況であります。ただ、65 歳以上を 74 歳で区切って 75 歳以上という区分を設けているのは、75 歳以上の後期高齢者の方々の伸び率と、それより下の世代の伸び率を分かりやすくするために書かせていただきました。15~64 歳という一番多い層ですが、別に区分を入れるとなるとどういった区分にすべきかといったことも含めて、検討しなければいけないかと思います。うまく区分ができましたら追加するなど、分かりやすく表記したいと思います。
委員	12 ページに「こどもたちを健やかに育てられる環境の下で若者が集まり、若者が集まることで」という文章がありますが、若者とは何歳を想定しているのでしょうか。「こどもから若者、高齢者まで」という部分にも若者という言葉が出てきています。若者は何歳を想定しているのか気になったので質問させていただきました。
事務局	若者の具体的な定義を考えて作った表現ではないですが、「若者が集まることで産業や経済が活性化して」という文章がありますが、その前に「こどもたちを健やかに育てる環境の下で若者が集まり」という表現をしていますので、ここでいう若者は子育てをする世代のイメージで書かせていただいて

	おります。
事務局	以前、市長からも説明いただいた「好循環の米沢」ということで、米沢市が取り組んでいる施策のうち、教育・子育ての米沢として、子育て世代を中心となつた若者ということで、上の文章では捉えていると思います。下の文章の若者については、「学生だけではなく」という対比の中で、こどもから全年齢という意味合いで、こども、高齢者、その中間としての若者といったところとして、壮年が抜けているかもしれないですが、そういった使い方になつております。同じ若者ですが、上と下の文章では違うところもありますので、修正を加えたいと思います。
委員	上は子育て世代なのかと思ったので、具体的に子育て世代と書いてもらえばと思ったところです。ただ、その中で「こどもたちを健やかに育てられる」とありますが、子育て世代でも子育てしない若者もどんどん増えていく中で、ウェルビーイングでいうと子育てをしなくても若者として経済を動かしていくというような価値観も今の世の中に出でています。ウェルビーイングを考えると、限定的な言い方というのがセンシティブな形になるので、これだけ載せるのもどうかと思つたりもしていたので、その点を考慮していただければと思います。この文章については子育て世代として共感できる部分でもあります。下の文章は先程も説明があったように、学生と学生ではないという対比になると、どうしても学園都市の説明なので学生中心に考えているのは仕方ないと思いますが、学生とそれ以外となつてしまうと、それ以外のほうが多いので、逆にそのあたりの主体をどこに置くかというバランスがないと、具体的にイメージしづらいのではないかと思います。また、主体者としての意識が醸成されない方々も出てくるかと思つてしましました。子育て世代、そして、子育てが終わっても、生産年齢人口の世代というように、フォーカスを充てていただきたいと思います。バランスをとった相対的な話につながるのではないかと思ったところでしたので意見させていただきました。
事務局	これまでの学園都市というのが、どうしても学生が中心となって大学、商工会議所、役所が入つて学園都市推進協議会を作つて、企業の皆さんと一緒にやつているというイメージでした。これから「学園都市・よねざわ」というのは、全年齢を対象にしてみんなが学び支え合いながら、活躍できるというところを目指していきたいという文章にしておりましたので、そういったところをもう少し分かりやすいようにしていきたいと思います。
市長	今日は午前中に山形大学の顧問会議がありまして、山形大学の学長、副学長、執行部の皆さんと、大学の拠点がある山形市長、米沢市長、鶴岡市長、山形銀行の頭取、山新の会長といった方々と定例の3カ月に1回の顧問会議を行つています。その時に、私どもから提案したのは、大学の役割もこれから30代、40代、50代、60代でも学びたいので、学ぶことによって能力を高めて、生産性を上げて世の中を活発にしていくリスクングの社会であるということです。山形大学も学生も減つていて受験生も減つてはいるので、逆に全世代を対象にした学び舎を展開したらどうでしようかという話をしたところでございます。すなわち、ここでいう学園都市というのは、みんなが学べる、そしてその結果、自己実現をしてそれぞれの舞台へ活躍をするということです。何も生産されるだけではなくて、趣味でも何でも良いのですが、そういったことの拠点としての大学があるのではないかところでございます。その先端に米沢があるというイメージを持っております。そのために日

- 本人だけではなく外国人が学んでも良いのですが、今日話をしているところであります。生きがいというのでしょうか、大学は20代だけのものではないという意味合いで、大学も変わっていただき、自治体もそういう目で捉えていく話をしているところです。そのあたりも分かるような書き方になると良いのかかもしれません。
- 委員 17 ページに「山形新幹線の福島-米沢間のトンネル整備、奥羽本線の利便性向上、米坂線」について書かれていますが、奥羽本線の利便性向上というのは、米沢市としてどういう働きかけや要望といいますか、例えば、本数を増やすなど、そのあたりが分かりかねたので教えていただきたいです。また、どちらかというと福島-米沢間のトンネル整備は、県知事も公約に挙げておられますし、米坂線についてはJRが難色を示されていることもあって、この3つを並列した書き方だとどうなのが感じたところです。
- 事務局 奥羽本線の利便性向上については、市では国や県に重要事業の要望という形で、JRも含めて要望させていただいております。その中では、特に高校生の利用が多い時間帯の本数の増便などを具体的に要望させていただいているところです。そういったものも含めながら奥羽本線がより使いやすくなるような利便性向上に向けた要望をしている状況でございます。また、トンネル整備、奥羽本線、米坂線、それぞれ状況が違う中で並列するのはいかがなのかということになりましたが、事務局の考えとしましては、鉄道に関するものを並べさせていただきまして、充実・活性化に向けて連携していくということを表明していることで捉えております。並び替えなどは必要に応じて検討させていただきたいと思います。
- 委員 16 ページの周辺地域について、新しい産業団地についての話もありますが、今ある産業として、去年も一昨年もオープンファクトリーで工場を開放して、市民の方に知っていただき体験していただく活動をしていたように、今ある産業も混ぜて盛り上げていこうとか、それに携わる人材を育む、それを知ってもらうためにこどもたちに学習してもらうといった文章も追記していただければと良いと思いますがいかがでしょうか。
- 事務局 この部分はあくまで土地利用を書かせていただいておりますので、ハーフ面の整備になっております。委員からいただいた御意見は、どちらかというと具体的な施策になってくると思いますので、これからお示しする基本計画などに書いていきます。
- 委員 16 ページの「市街地の中心部において、公共的施設を核とした低未利用地等の有効活用を官民連携で進め、まちなかでの消費と投資を喚起します」について、具体的に公共的施設は何かあるのでしょうか。
- 事務局 市街地の中心部については、今、ナセBAがあるあたりを想定しておりますが、この度、商工会議所の新会館もそこに建つということもあり、公共的施設と表現させていただいております。そこを中心として、未利用になっている土地もありますので、官民連携で進められないかということで検討している中ではありますので、そういったものをイメージして入れているという状況でございます。
- 委員 市街地の中心部は、10年後20年後も揺るがない場所であるということでしょうか。絶対にぶれないというところで考えていかないといけないかと思いました。例えば、イオンがある辺りもあると思いますが、実際に伊達市に東北最大規模のイオンができると、米沢のイオンはどうなるかという話も5年後ぐらいの現実的な話になってくるので、中心部をどこに据えるかという

	ことを、5年後 10 年後を見据えながら置いていかないといけないと思います。商工会議所の新会館予定の場所を中心にという回答をいただけたので大丈夫です。もう1点、「国土強靭化や物流効率化、地域間交流を図る広域的な道路交通網の整備促進」とありますが、国土強靭化というと掴みどころがないというか、防災的な観点や有事の観点が一番大きいので、そこは防災や有事と書いてしまっても良いかと思います。国土強靭化と書かれてしまうとクエスチョンな部分も一般の方はあるのかと思いました。「周辺地域を結ぶ環状道路や幹線道路の整備を含め、道路ネットワークを強化します」とありますが、具体的にどのように強化していくか、これも有事の際や災害・雪に強い道路ネットワークという具体的な一文がつくと、何を目的として強化するか明確化すると思いました。道路ネットワークを強化する上では、雪・災害に強い道路ネットワークというのは米沢に関しては必要かと思います。
事務局	国土強靭化については、確かに分かりづらい部分もありますので、文言については検討させていただきたいと思います。2つ目の御意見についても、雪・災害だけではなく、想定しているのは通常時の渋滞や市民生活にも関係するようなものとして重要な部分もあると思いますので、文言を追加させていただき分かりやすくしたいと考えております。
委員	19 ページに「DX、リスクリキング等による生産性向上や人材育成に取り組む」とありますが、行政としてもそういう研修会などを開いて取り組むことがあるかもしれません、もっと大事なことは、取り組む企業を誘致することが大事であると思います。まずはそこの部分を計画に入れていただきたいと思ったのですがいかがでしょうか。
事務局	DXやリスクリキングに取り組むような企業の誘致という面もあるかと思いますので、具体的な取組として検討したいと思います。どういった企業を誘致してくるかというところもあると思いますので、そういったことも含めて検討させていただければと思います。
委員	2030 年までとなっていますが、SDGs の取扱いはどうされるのでしょうか。
事務局	基本計画の中のそれぞれの取組に対して、どういったSDGs に結び付くかを掲載していく予定でございます。

(2) 今後の進め方等について

(資料3に基づき説明)

委員	総合計画案はこれが最終的に市民の方は御覧になるものですか。
事務局	総合計画の案という部分につきましては、先程スケジュールで申し上げましたが、最終的にはパブリック・コメントで皆さんの中に触れるような形になると思います。その前に、冒頭でもお話ししましたが各種団体などにも御意見を聴くという話もありましたので、そういったところでも見ていただけるような形では考えていきたいと思います。
委員	県の教育委員会にも第6次教育振興計画があります。とても分厚いもので見る人がほとんどおりませんので、ダイジェスト版という一枚もののものがございまして、比較的分かりやすく見ていただいております。総合計画案とともに、ダイジェスト版があると皆様から御意見が出やすいかと思いました。先週のNHKの歴史探偵で上杉鷹山の改革をやっていましたが、それがとても分かりやすかったです。感想なのですが、何百年前にも米沢で人口が減っていた時がありました、そこからV字回復したということをしていま

した。少子化といって止めなければならないと言いつつ、みんな諦めムードがあるわけです。しかし、200 年前に上杉鷹山も頑張ったから我々もできるのではないかということがどこかにあれば盛り上がるのではないかと思ったところでした。

事務局

パブリック・コメントの時もダイジェスト版、概要版を作りまして、市民の方になるべく見ていただけるような形でお示ししたいと考えております。本冊のほうもなるべく見てもらえるような、手に取ってもらえるような計画ということで、分かりやすいものにしていきたいと思いますが、ダイジェスト版も含めてお示しするということで御了承いただければと思います。

市長

いろいろな貴重な御意見ありがとうございました。私の思いを申し上げると、あえて人口は残念ながら減り続けると申し上げました。ただ、そういう状況下にあっても、私の公約の中にも教育・子育ての米沢が一丁目一番地でありますし、好循環の最初がそこにあるべきだということは、しつこく言っておりますが、教育・子育て環境を整えるには最大限のアクセルを踏んで行わないと、もっと悪くなります。政府の予測よりもさらに悪くなるという思いだからです。今、徹底的に子育て世代にフォーカスし、教育環境に徹底的にアクセルを踏むことで 15 年間は減り続けるかもしれません、16 年後、20 年後には他地域よりも上回った人口を増やす環境を踏み込んでいかないとできないので、あえて行っているわけであります。学校給食の無償化を行ったところで、すぐにこどもが増えるとは思っておりません。しかし、そういったことをどんどんと打っていくことで 15 年後、20 年後に人口が増える環境が必ずできるという信念をもってやらせていただいております。一方では、人口が減り続け財源も少なくなってくるので、残念ながら縮小に耐えられるだけのまちづくりは同時にしなければいけません。攻めながら守る両方の作戦が必要なので、非常に難しいわけありますが、そういう意味では人口を増やすことを諦めたわけでは決してないということあります。ただ、この計画の 10 年間のフォーカスでいうと、現実的には 10 年間で増えるかというと難しいことです。先のことを考えて、今から徹底的に手を打っていかなければいけないという問題意識であります。そのことをどう表現するか難しいですが、両方大事だということで、そのような思いで計画を作らなければいけないと思っております。

【5 閉会】

省略